

この山に登ろう②⑥

瀬戸内の快適な尾根を縦走し眺望を楽しむ

ふるたかやま

古鷹山

394 m

クマン岳

399.8 m

江田島市



クマン岳頂上から見た広島市

広島登山研究所 代表 松島 宏

冬の陽だまり登山に最適なのが島嶼部の山です。広島湾に浮かぶ江田島にある古鷹山は旧海軍兵学校の鍛錬の山として有名です。と

にかく眺望が素晴らしい。広島市や安芸郡坂町から目と鼻の先で山並みを見ることができます。広島市からだてフェリーで切串、小用、中町に渡るか、陸路で呉市、音戸大橋、早瀬大橋を經由して登山口に向かいます。江田島市のHPでアクセス検索できます。陸路ではクレアラインを使えば広島市から1時間半で来ることができます。4月下旬のサクラやゲンカイツツジは特に有名です。



斜線は磁北線 東西約500m間隔 長さ約1kmに設定

登山口は海上自衛隊第一術科学学校から県道44号を登ってぶつかる三叉路を左折し、トンネルを過ぎて300m先。トイレと案内板、駐車場のある奥小路登山口が一番便利です(写真1)。小用港からは国道487号を約1.5kmで峠を越えて登山口に出ます。登り始めると直ぐに江能水道貯水池の入口を右折します。400mで世上登山口からの尾根道に合流します。

高度を上げていくと素晴らしい瀬戸内の風景が望めます。天宮水、バクチ岩を経て主稜線の鞍部に到達します。東に向かって三角点のある376mピークも15分で往復できます。頂上へは岩場を通過します(写真2)。鎖やロープが設置してありますので心配はいり



写真1：奥小路登山口



写真2：古鷹山頂上への岩場



写真3：古鷹山頂上方位盤

ません。古鷹山頂上には立派な御影石の方位盤があります（写真3）。三角点はありません。この方位盤には日本や世界の各地の地名が入っており、日本中から集まった自衛官の思いが故郷や世界に向かえるようになっているのでしょうか。元気のいい自衛官が日常的に駆け上がってきます。

さてクマン岳に向いましょう。西北西に尾根を辿ります。最初は岩場が出てきますから注意してください（写真4）。小ピークを三つ越えると林道に出ます。ここからは切串港に下りるまで素晴らしい眺望の尾根を辿ります。まず帆立岩が現れ（写真5）、岩の尾根を快適に進んで行くとクマン岳の広い頂上です。ベンチ、鐘、ノート、スタンプがあり、登山者の多さと人気を窺い知ることができます。まさに「瀬戸内海の真ん中にいる！」を実感できます。周囲の島々、広島市などの本土、四国方面等360度の素晴らしいパノラマが展開します。来て良かったなと感じられます。また宮島が間近に見え、いつもは本土側からしか見ていないので不思議な風景です。頂上や林道からの登山道沿いにも桜が植えてあります。花見シーズンも最高の登山ができそうです。

ここから切串港までのルートは、以前は踏み跡程度でした。地元の皆様のご努力によって登山道の整備が見事にされ、道標も完備し最高のルートとなりました。切串港までは北方面に尾根を辿ります。岩の混ざる数個の小ピークを越えて、地図上の277mピーク手前の最低鞍部が分岐となります。道標が切串港へのルートを導きます（写真6）。尾根から右の谷へ降りていきます。結構な急斜面や岩場の通過はありますが、谷筋をどんどん下ります。やがて竹林を経て堰堤、クマン岳登山口の看板、果樹園を過ぎれば民家が現れます。振り返れば歩いてきた尾根が全て見えています。クマン岳登山口から20分で切串港に到着です。奥小路登山口や切串港に車を置いて往復や周遊もできます。下山後は「シーサイド温泉のうみ」で汗を流し、旧海軍兵学校の見学もお薦めします。兵学校の見学は曜日により時間帯が変わりますので事前に調べてください。

行程

奥小路登山口→50分→主稜線鞍部→376m三角点峰往復→20分→古鷹山頂上→20分→林道→30分→クマン岳→30分→切串分岐→30分→切串港

所要時間 3時間

（まつしま ひろし）



写真4：クマン岳への岩場



写真5：帆立岩



写真6：切串港への道標